



IUFR0-J NEWS

No. 91 (2007.6) —

議長就任にあたって

IUFR0-J 議長 鈴木和夫

2007 年度に入って大熊幹章前議長の退任に伴って IUFR0-J 議長をお引き受け致しました。宜しくお願い申し上げます。

私のユフロとの関わりは、1981 年に京都で開催された第 17 回世界大会に遡ります。ユフロ会長であったウォルター・リーゼ氏（ハンブルグ大学、独）は、わが国の世界大会組織委員会を振り返って当時の凄まじい熱気を語ってくれました（IUFR0-J NEWS 68, 2000）。私は大会事務局要員でしたので、大会では発表の時間を除くと殆ど参加した実感がありませんでした。それでも、エクスカーションでは多くの海外からの研究者に接することができ、大いに刺激を受けました。その後、1991 年からは IUFR0-SPDC と連携して取り組んだバイオリフォル・プロジェクト（Biotechnology Assisted Reforestation in Asia Pacific Region）の事務局長として、毎年開催されるワークショップの様子を IUFR0-J NEWS に報告してきました。これは、第 12 回ジョグジャカルタ・ワークショップ（2003 年）で一段落しました。一方、ユフロ理事会活動に加わったの

は拡大理事会メンバーとして 1996 年からです。引き続いて、理事会メンバー・第 7 部会長（Coordinator）として 2001 年から 10 年間、欠かさず出席した理事会の報告を IUFR0-J NEWS に掲載して、漸く一区切りがついたと思っていたところでした（IUFR0-J NEWS 83, 2004）。

そして、此の度 IUFR0-J 議長を仰せつかりました。IUFR0-J は上述の通り世界大会開催に向けて 1976 年に IUFR0-国内委員会（IUFR0-J）として発足したものです（IUFR0-J NEWS 1, 1977）。現在も、IUFR0-J は、わが国のユフロ活動を支えるために、ユフロ理事会（中静透・東北大）・拡大理事会（酒井秀夫・東京大、吉本敦・東北大、鎌田直人・東京大）メンバーと連携して、国際化がますます進む森林・林業研究に取り組む研究者の方々のネットワークとして、国際的に先端化・細分化していく森林情報の発信・提供に努めたいと考えています。ユフロと IUFR0-J の活動にご理解・ご協力を頂き、多くの方々が会員として活動に参加されることを願います。次第です。

インタープリメント2006 国際シンポジウム概要報告

インタープリメント2006 実行委員会

委員長 丸井 英明

はじめに

2006年9月25日から29日にかけて新潟市において新潟大学を会場としてインタープリメント2006 国際シンポジウムが開催された。前回、2002年の長野県松本市での開催に続き、アルプス諸国以外の地域でインタープリメント会議が開催されたのは今回で2回目である。今回のシンポジウムは「土石流、崩壊、地すべり災害の軽減」をテーマとして砂防学会と新潟大学との共同主催の下に関係団体の後援並びに協賛を得て開催された。参加者は総計163名であり、特に外国人の参加者はオーストリア、スイス、フランスを始めとする19ヶ国から58名を数えた。口頭発表を始めパネルディスカッション、並行ワークショップやポスターセッションあるいは現地見学会などにおいて活発な意見交換が行われた。本シンポジウムの開催に当たっては多くの関係機関からの後援や助成を得たが、特にIUFRO-Jから助成を得たことを記し、感謝の意を表したい。以下に会議の概要を報告する。

1. 開催趣旨

今回の新潟における国際シンポジウムの開催は、2004年10月の新潟県中越地震による土砂災害の発生を背景としている。中越地震による甚大な土砂災害の発生は世界中に報道され、防災関係者の強い関心を喚起すること

となった。また、この未曾有の大災害を契機として、地震やその後の融雪や豪雨による土砂災害のメカニズムについての調査研究が推進されている。さらに、2005年10月にはパキスタン北部地震により大規模な土砂災害が発生しており、地震による土砂災害に対する安全性の確保をハード・ソフト両面から総合的に議論することが各方面から要請されている。そこで、土砂災害からの復興と今後の災害軽減戦略に関する方策や研究成果について海外の研究者・行政担当者と率直な意見交換を行うことを企図した。

2. 会議プログラム

第1日目 9月25日(月)

開会式 (13:00-13:30)

記者発表 (13:30-14:00)

口頭発表セッション1 (14:00-15:20)

口頭発表セッション2 (15:40-17:00)

ポスター発表セッション (14:00-17:00)

ポスター展示 (14:00-17:00)

ウェルカム・レセプション (18:00-20:00)

第2日目 9月26日(火)

口頭発表セッション3 (09:00-10:20)

口頭発表セッション4 (10:40-12:00)



写真-1 開会式 (Rohner 会長挨拶)



写真-2 開会式 (会場全景)

口頭発表セッション5 (14:00-15:20)

口頭発表セッション6 (15:40-17:00)

ポスター発表セッション (09:00-17:00 (コアタイム
13:00-14:00))

ポスター展示 (09:00-17:00)

国際GISワークショップ (10:00-17:00)

第3日目 9月27日(水)

口頭発表セッション7 (09:00-10:40)

口頭発表セッション8 (11:00-12:20)

ポスター発表セッション (09:00-14:00)

ポスター展示 (09:00-14:00)

パネルディスカッション「中越地震による土砂災害」
(14:00-17:00)

第4日目 9月28日(木)

全日現地見学会 (08:30-17:30)

対象：中越地震による土砂災害被災地域



写真-3 口頭発表セッション



写真-4 ポスターセッション

第5日目 9月29日(金)

半日現地見学会 (08:30-12:30)

対象：大河津分水路並びに資料館

ワークショップ「パキスタン北部地震による土砂災害」
(14:00-17:00)

3. 口頭発表セッション

3日間の会期中に、海外から23編、国内から10編、
合計33編の論文の口頭発表がなされ、質疑応答が行わ
れた。各セッションのテーマは以下の通りである。

セッション1「地すべり1」 議長：千木良教授(京都
大学), 討論司会：Parkner博士(北海道大学), 発表件
数4。

セッション2「地すべり2及び雪崩」 議長：Kienholz
教授(ベルン大学), 討論司会：王博士(京都大学), 発
表件数4。

セッション3「発生機構」 議長：Brueckl教授(ウー
ン工科大学), 討論司会：新井場博士(消防研究所), 発
表件数4。

セッション4「斜面安定」 議長：Fiebigler博士(コン
サルタント), 討論司会：Berger博士(セマグレフ),
発表件数4。

セッション5「流出及び洪水」 議長：丸谷教授(北海
道大学), 討論司会：Sereinig氏(ケルンテン州河川局),
発表件数4。

セッション6「モニタリング及びハザード・マッピング」
議長：Rohner会長(ケルンテン州河川局, 討論司会：
Rudolf-Miklau博士(オーストリア砂防部), 発表件数4。

セッション7「落石」 議長：Stokes博士(ボルドー大
学), 討論司会：岡田博士(森林総研), 発表件数5。

セッション8「災害軽減戦略」 議長：Patek副会長
(オーストリア砂防部), Mikos教授(リュブリャナ大学),



写真-5 ウェルカム・レセプション

発表件数4。

今回のシンポジウムでは開催背景を反映し、地すべり、落石、斜面安定に関する発表が目立った。また、オーストリアやヴェネズエラで2005年に発生した災害に関する事例報告並びに災害軽減戦略に関する発表を巡り活発な討論がなされた。

4. ポスター発表セッション

口頭発表と並行してポスター発表セッションにおいて50件の発表がなされ、2日目のコアタイムには個別に質疑が行われた。

5. プロシーディングス

シンポジウムへの投稿論文は編集委員会の査読を経て最終的に86編が載録され、上下2巻、総頁数838頁のプロシーディングスとして出版された。

6. 現地見学会

会議第4日目の9月28日(木)に、一日行程で芋川流域を中心とする中越地震による土砂災害被災地域の現地見学会を実施した。現地の交通事情の制約があり、参加対象を海外からの参加者に限定せざるを得なかった。各国からの参加者は一様に斜面災害の甚大さと復旧工事の迅速な進行状況に極めて強い印象を受けた模様であった。

会議第5日目の9月29日(金)に、半日行程で大河津分水並びに同資料館の現地見学会を実施した。

7. 国際GISワークショップ

会議第2日目の9月26日(火)には、並行行事として、一般にも開放する形式で、GISの具体的な適用事例に関するワークショップが開催された。

8. パネルディスカッション「中越地震による土砂災害」

会議第3日目の9月27日(水)午後、一般にも開放する形式で、標記ディスカッションを開催した。コーディネーターを京都大学防災研究所のSidle教授が勤めた。最初に、新潟大学の渡部講師、権田助教授、森林総研の浅野氏、湯沢砂防事務所の山口所長から、それぞれ地質的背景並びに地震の概要、土砂災害の概要、加速度特性、

土砂災害対策に関する話題提供がなされた。さらに、ウーン工科大学のシモンチッチ教授並びにマツハ助手から耐震建築に関する提案が示された。その後、パネリスト5名を中心とするディスカッションが約90分に亘って展開された。フロアからも、特に発展途上国の参加者から活発な発言が見られた。

9. ワークショップ「パキスタン北部地震による土砂災害」

会議5日目の9月29日(金)午後、一般にも開放する形式で標記ワークショップを開催した。コーディネーターを京都大学防災研究所の千木良教授が勤めた。最初に、パキスタン地質調査所のKausar博士、Durham大学のPetley教授、京都大学の千木良教授、山形大学の八木教授、国土防災技術㈱の真弓博士から、それぞれ地震の概要、地すべりの特徴、地すべり災害の概要、斜面変動の分布、後続地すべり対策に関する話題提供がなされた。その後、約60分に亘って活発な討論がなされた。

10. おわりに

今回のシンポジウムでは、研究者主体の会議と位置付けたことにより、国内からの参加者数は前回2002年の松本での会議に比べて約半数に留まっているが、当初の予想を上回る参加を得た。また、外国人の参加者数が前回を上回る多数となったことは特筆される。特に、今回新たに若手研究者多数の参加があったことは防災分野における国際交流の発展にとって好材料と考えられる。弱体な事務局で準備・運営に当たらざるを得なかったため、行き届かなかった点も少なかったが、現地見学会やフェアウェルパーティなどの場で、外国からの参加者からはシンポジウム内容全般に対する肯定的な評価と感謝の言葉を頂いた。前回の松本での2002年の国際会議に引き続き、今回のシンポジウムが土砂災害の軽減を目標とした国際交流の流れに新たな足跡を付け加えることができたと考える。今回のシンポジウムで交換された知見が参加者各位の研鑽の糧となると同時に、何らかの形で日本の治山・砂防事業の発展にも活かされていくことを祈念する次第である。本シンポジウムは多くの関係者の御尽力と御支援により成功裏に開催できたものである。全ての関係者の方々に衷心より御礼を申し上げたい。

IUFRO 関連集会案内

IUFRO 第5部会大会

(2007年10月29日～11月2日 台北, 台湾)

IUFRO 第5部会は「林産」に関連した部会, IUFRO 世界大会の2年後もしくは3年後に開催されている1週間ほどの研究集会です。前回は, 2003年3月にニュージーランドのロトルアで開催されました。大会は, 基調講演, プレナリーセッション, グループセッション, 半日のテクニカルツアーなどからなり, ポストコンGRESツアーも用意されています。

口頭発表要旨の提出期限はすでに過ぎていますが, ポスター発表要旨の提出期限は7月17日ですので, まだ間に合います。会議の詳細は, 下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.alldiv5iufro2007.org.tw/index.asp>

IUFRO D3-会議

—天然資源利用に向けて環境的に健全な技術を探る—

(2008年6月15～20日 札幌)

同会議は研究者, 専門家, 森林作業工学および経営の専攻生が一同に会し, 森林資源利用のための環境的に健全な技術の方向性や方策に関する考え方やアイデアを交換することを目的とします。セミナーは4つの主要部門(収穫運材工学, 森林作業管理, 森林作業と環境, 森林労働科学)から成り, 招待講演, 研究発表, 分科会で構成されます。

要旨申し込み	2007年	8月31日
受理の通知	2007年	9月30日
原稿提出	2008年	2月15日
登録支払い	2008年	2月15日
宿泊申し込み	2008年	2月15日

<http://jfes.ac.affrc.go.jp/All-IUFRO-D3-ConferenceJ.htm>

6th Workshop of “uneven-aged silviculture”

IUFRO group in Shizuoka (2008)

複雑構造をめざす造林技術とその実行可能性: 森林生態系の多目的機能と持続可能性のためのデザイン手法 (2008年10月28～31日 静岡大学にて)

今回のワークショップではとくに林分構造の複雑性を管理する実行可能性をトピックとして, 機能論や目標設計論ではなく, 実行プロセスに踏み込んだ内容を目指します。様々な地域の自然・社会環境に適応しながら, どのように林分構造の複雑化を実現するのか? 「多様な生態系サービスを維持するため, どのような林分構造のデザインが有効か?」「どの空間スケールで, どのようなプロセスを管理するのか?」関連する幅広い分野で, 熱帯から亜寒帯までの多様なバイオームでの地域に根ざした研究報告を期待しています。

発表要旨提出	2008年	5月31日
出席登録	2008年	7月30日
エクスカージョン申し込み	2008年	9月15日

http://www.ffpri.affrc.go.jp/symposium/uneven-aged2008/HTML_jp/index.html

IUFRO 関連集会は多岐にわたるため, 事務局だけでは把握できません。会員の方からの情報をもとに IUFRO-J ニュースやメーリングリストで紹介したいと考えています。会員の皆様が関係する IUFRO の集会について, 1) 会議名, 2) 開催日時・場所, 3) 会議の概要, 3) 主な日程, 4) 連絡先またはウェブサイト等の情報を電子メールで事務局主事・藤間宛 (toma@affrc.go.jp) お送り頂ければ幸いです。ご協力のほどお願いします。

IUFRO-J 平成19年度機関代表会議

平成19年4月3日に九州大学農学部3号館114号室において、標記会議が開催されました。A会員、B会員合計15機関代表に出席いただき、藤間剛主事の司会で議事が進められました。以下では、代表会議での審議、承認された議題の概要を報告します。なお会議開催に際して九州大学の第118回日本森林学会大会運営委員会の皆様に大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

・平成18年度会務報告

1. 一般会計

1) IUFRO-J News 発行

No.88 (2006.8) : APAFRI 第4回総会報告・機関代表会議報告

No.89 (2006.12) : 拡大理事会報告・科学部会会合報告・シンポジウム開催報告

No.90 (2007.3) : 集会参加報告

会誌送付会員(平成19年3月20日現在(会費納入者数))の現状

A会員 : 32機関(668)名分納入済み
(会員数前年度比: 17人減)

B会員 : 20機関 17機関納入済み
(会員数前年度比: 3人減)

C会員 : 35名(29)名納入済み
(会員数前年度比: 3人増)

賛助会員: なし

2) 理事会出席助成

なし

3) IUFRO 関連研究集会事務局・参加助成

事務局(20万円)

丸井 英明(新潟大学)

参加(10万円)

該当者なし

4) IUFRO-MC 会議支援

2. 平成18年度役員

議長 大熊 幹章(森林総研)

幹事 沢田 治雄(森林総研)

田中 俊成(森林総研)

監事 本山 芳裕(日林協)

三國 昇(林振)

主事 藤間 剛(森林総研)

・平成18年度会計決算報告

1. 一般会計(平成19年3月20日現在)

【収入】

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	1,551,807	1,551,807	
会費 A会員	763,000	668,000	
B会員	121,000	100,000	
C会員	34,000	29,000	
前年度未収分	96,000	21,000	
前 納 分	0	5,000	
雑 収 入	1,000	392	利息, 専門用語集
単年度収入小計	1,015,000	823,392	
合 計	2,566,807	2,375,199	

【支出】

科 目	予 算	決 算	備 考
情報活動費	750,000	325,042	J-News印刷費 (No.88,89,90) ・送料・通信費
内 訳 J-News 88印刷		82,498	
J-News 89印刷		92,368	
J-News 90印刷		87,118	
J-News 送料		46,790	
通 信 費		16,268	封筒, 往復はがき, 切手代等
会 議 費	50,000	30,000	平成18年度機関 代表会議 (東京農業大学)
旅 費	300,000	0	
雑 費	10,000	10,255	振り込み手数料, 送金手数料
予備費・助成	200,000	200,000	事務局助成
単年度支出小計	1,310,000	565,297	
次 年 度 繰 越	1,256,807	1,809,902	
合 計	2,566,807	2,375,199	

・平成18年度監査報告

平成18年度ユフロ-J事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成19年3月26日

IUFRO-J 監事

財団法人 林業科学技術振興所 事業部長
三國 昇 印

平成18年度ユフロ-J事業会計について監査した結果、各種帳簿ならびに証拠書類はいずれも、正確に整理・記録されており、本件経理は適正であったことを認める。

平成19年3月26日

IUFRO-J 監事

社団法人 日本森林技術協会 理事
本山 芳裕 印

・平成19年度事業計画案

1. 一般会計事業

1) IUFRO-J News 発行

番号（予定時期）：掲載記事に関する事務局案
No.91（2007.6）：拡大理事会報告，集会報告，
機関代表会議報告

No.92（2007.12）：集会報告，理事会報告

No.93（2008.3）：集会報告

各1000部印刷し，会員配布

IUFROおよびIUFRO-Jの目的に添った内容で，
会員相互に広く共有すべき記事を掲載したいと考えています。積極的に事務局にご相談ください。

2) 理事会出席助成

IUFRO役員からの申請に応じて，2007年5月に北京で開催される拡大理事会参加旅費を助成する。

3) IUFRO 研究集会事務局・参加助成

IUFRO 関連集会の事務局費，参加費に対する助成で，事務局助成は1件20万円，集会参加（海外での発表に限る）は1件10万円，年間総額50万程度を目処とする。助成申請は随時受け付けている。12月末で集計し，選考委員会に諮り，助成対象を決定する。助成を受けた方には本IUFRO-J Newsでの報告をお願いしている。本年度は，集会参加助成を徳田佐和子氏（北海道立林業試験場），来田和人氏（北海道立林業試験場），小野里光氏（群馬県林業試験場）に行う。

4) 研究集会の後援

6th IUFRO Workshop of “uneven-aged silviculture group in Shizuoka（2008）”を後援することが承認された。

5) 長期滞納会員の解消

6) 新規会員の加入勧誘

・平成19年度予算案

予算案立案の基本的な考え方

○一般会計予備費を関連研究集会助成に活用する方向を継続する。

○単年度収支に心がける。

1. 一般会計予算案

【収入】

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	1,809,902	
会費 A 会員	762,000	
B 会員	136,000	
C 会員	35,000	
前年度未収分	165,000	平成18年度97,000円
次年度前納	0	
雑 収 入	1,000	利息，専門用語集
単年度収入小計	1,099,000	
合 計	2,908,902	

【支出】

科 目	予 算	備 考
情 報 活 動 費	400,000	J-News印刷費(No. 88, 89, 90) ・ 発送料・通信費
内訳 J-News 91印刷	100,000	
J-News 92印刷	100,000	
J-News 93印刷	100,000	
J-News 発送料	50,000	
通 信 費	50,000	封筒，往復はがき，切手代等
会 議 費	30,000	平成19年度機関代表会議 (九州大学)
旅 費	300,000	理事会出席助成
雑 費	10,000	振り込み手数料，送金手数料
予備費・助成	300,000	集会参加助成
単年度支出小計	1,040,000	
次年度繰越	1,868,902	
合 計	2,908,902	

・ 役員選出, 承認

平成19年度役員候補

役員	氏名	所属	区分	(任 期)	役職による指定
議長	鈴木 和夫	森林総研	新	(H19年4月～)	理事長
幹事	沢田 治雄	森林総研	現	(H15年4月～)	研究コーディネータ
	田淵 隆一	森林総研	新	(H19年4月～)	国際連携推進拠点長
監事	本山 芳裕	日 森 協	現	(H16年10月～)	
	佐々 朋之	林 振	新	(H19年4月～)	
主事	藤間 剛	森林総研	現	(H18年4月～)	国際研究推進室長

議長, 幹事および監事は機関代表会議で選出, 主事は議長が委嘱。(会則第11条)

任期は2年, 再任は妨げない。(会則第12条)

・ 主な討議事項

役員の交代

IUFRO-Jの代表者である議長は、「役職(官職)による指定」により, 森林総合研究所の理事長がつとめてきました。平成19年3月31日付けで森林総合研究所理事長の大熊幹章氏が退任され, 4月1日付けで鈴木和夫氏が森林総合研究所理事長に就任しました。これを受け鈴木氏にIUFRO-J議長をお願いすることが, 満場一致で承認されました。

平成9年10月から19年3月まで, 幹事を務めていただいていた三國昇氏(林業科学技術振興所)が退任する事になりました。後任幹事が代表会議の場で選出されなかったため, 後任幹事の選出はIUFRO-J議長に一任されることが承認されました。なお, 後任幹事には佐々朋幸氏(林業科学技術振興所)が就任される事となりました。

研究会の後援

静岡大学農学部・水永博己氏より申請のあった「6th IUFRO Workshop of “uneven-aged silviculture group in Shizuoka (2008)」をIUFRO-Jとして後援することが承認されました。後援内容は, IUFRO-Jニュースによる事前事後のワークショップ紹介, IUFRO-Jニュースとワークショップのポスター, 案内状の同送等の広報支援です。

IUFRO-Jの会則には研究会後援に関する規定はなかったため, 研究会後援について審議しました。その結果, 研究会がIUFRO-Jの目的に沿い, 後援内容が経費の支出を伴わないものである場合は, 事務局で後援を決定し機関代表会議に報告することになりました。

その他

会員間の情報共有, 事務局からの各種連絡の迅速化を図るため, IUFRO-Jメーリングリストを立ち上げ, メーリングリストの運用については試行しながら改良していく事となりました。

IUFRO 役員(2006～2010)

理事 (General member)

中 静 透 (東北大学)

第3部会 Deputy Coordinator

酒井 秀夫 (東京大学)

第4部会 Deputy Coordinator

吉本 敦 (東北大学)

第7部会 Deputy Coordinator

鎌田 直人 (東京大学)

IUFRO-J News No. 91 平成19年6月18日

国際森林研究機関連合-日本委員会事務局

〒305-8687 茨城県つくば市松の里1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327, 8328

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

【編集・発行】